



Trimble Access

バージョン 2020.20

2020年12月

これらのリリースノートでは、Trimble® Access™ソフトウェアの本リリースで使用可能な新機能や変更について説明します。

新機能

Trimble Access で作成したプロジェクトをクラウドにアップロードする

必要に応じて、コントローラ上でローカル作成済みのプロジェクトをクラウドにアップロードすることができます。プロジェクト画面でプロジェクトを選択し、 をタップした後 アップロードを選択します。プロジェクトがクラウドに保存されたら、ジョブ画面からローカルジョブを選択してクラウドにアップロードできます。

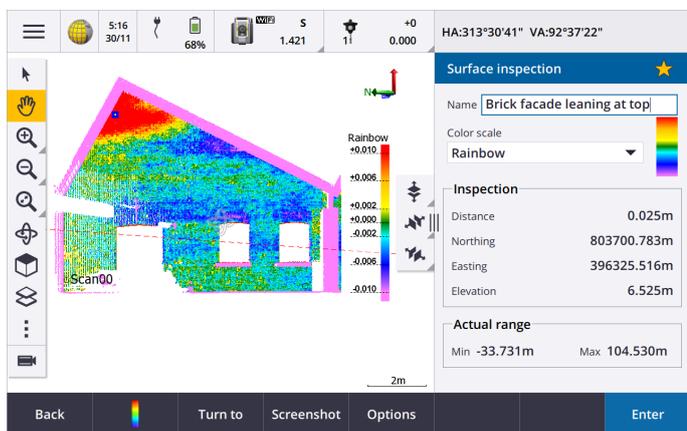
クラウドに存在するプロジェクトやジョブは、Trimble Sync Managerを使用し、他のチームメンバーと簡単に共有したり、オフィスから管理したりすることができます。

ヒント - クラウドにプロジェクトをアップロードできるようにするには、コントローラがインターネットに接続され、かつTrimble IDを使用してサインインしている必要があります。Trimble IDをお持ちでない場合は、サインイン画面から作成できます。サインイン画面を表示するには、プロジェクト画面のタイトルバーにある  アイコンをタップします。

詳しくは、[Trimble Access ヘルプ](#)内の [クラウドにローカルプロジェクトをアップロードするには](#) のトピックをご参照ください。

面の点検

新しい面の点検機能を使用して水平床、鉛直壁、斜面や円柱などの出来形を基準面と比較します。面の点検測量計算機能は、選択されたスキャンに含まれる各ポイントの基準面までの距離を計算し、点検点群を作成します。



点検点群の点は色分けされ、点群と基準面の間で視覚的なフィードバックを即座に提供します。例えば、レンガ造りの建物正面を点検する場合、正面のセクションが垂直外の動きの兆候を示しているかどうかを確認できます。

任意のスキャンポイントを選択して、そのポイント固有の情報を表示します。接続された機器を選択中のポイントに向けるには、ここに向けるをタップします。

保存をタップして、点検点群をジョブに保存します。また、画面キャプチャを保存し、必要に応じて注釈を付けて特定のポイントや問題領域を強調表示することもできます。

注意 - Trimble SX10 スキャニングトータルステーションを使用して作成されたスキャンのみ面の点検で使用できます。出来形面をカバーするのに複数のスキャンが必要な場合、複数のスキャンを使用できます。

詳しくは、[Trimble Access ヘルプ](#)内の面の点検のトピックをご参照ください。

SX10 スキャンを繰り返すには

Trimble SX10 スキャニングトータルステーションを使用して同じエリアを複数回スキャンする場合、同じジョブまたはリンクされたジョブ内の以前のスキャンの設定を読み込むことで、スキャンをすばやく簡単に繰り返すことができます。たとえば、床を一度スキャンして、水平出しが必要な高いまたは低い領域を見つけたり、修復作業を実行した後、スキャンを繰り返して、床が必要な許容範囲内であることを確認できます。

詳しくは、[Trimble Access ヘルプ](#)内の **Sx10** スキャンを繰り返すには のトピックをご参照ください。

機能強化

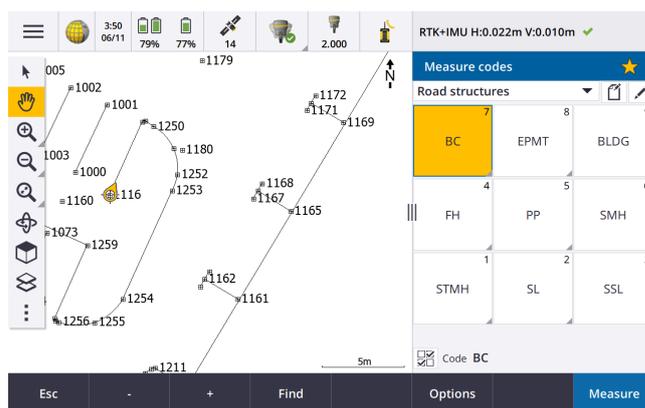
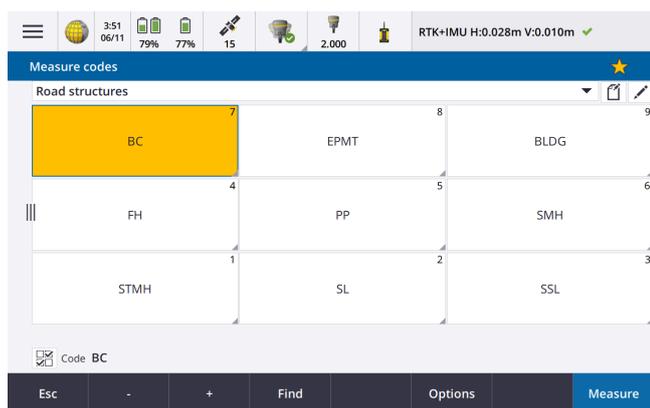
マップとフォームのサイズを変更する

任意のコントローラーの、マップの横に表示されるフォームのサイズを変更できるようになりました。以前は、Trimble TDC600 コントローラを使用する場合にのみ、この操作を行うことができました。

さらに、ソフトウェアは異なるフォームのお好みのサイズを記憶できるようになりました。

- Trimble Access ソフトウェアを横長モードで表示する場合は、 をタップし、左または右にスワイプしてフォームのサイズを変更します。縦長モードで、 をタップし、上または下にスワイプしてフォームのサイズを変更します。フォームのサイズは、最も近いプリセット位置に変更されます。
- フォームを一時的に最小化してマップの拡大表示するには、 をタップし画面の右端までスワイプするか、 をタップし画面の一番下までスワイプします。
- フォームを全画面表示にするには、 をタップし画面の一番左にスワイプするか、 をタップし画面の一番上までスワイプします。

大きなフォームは、マップやマップの一部の表示よりもボタンの大きさを優先し、コード測定などの機能を使用する際に特に便利です。



お気に入り機能の強化

お気に入り機能を使用すると、ソフトウェア画面、マップ制御へのショートカットを作成したり、機器や受信機機能を有効 / 無効にしたりすることができます。

特別機能の割り当てリストに、さらに機能を追加しました:

- 自動杭打ち切り替え **F1/F2**
- 自動測定切り替え **F1/F2**
- 衛星グループの切り替え
- メニューソフトキー
- 入力ソフトキー

III アイコンのないソフトウェア機能にファンクションキーショートカットを割り当てるには、お気に入り画面で  をタップし、使用したいファンクションキーの上で+タップし、割り当てたい機能を選択します。

詳しくは、[Trimble Accessヘルプ](#)内のお気に入り画面と機能のトピックを参照してください

Bluetooth接続で反面ディスプレイが利用可能になりました

コントローラがBluetoothで Trimble S Series トータルステーションに接続されているとき、反面 (F2) ディスプレイが有効になります。

この機能はサードパーティー製タブレットを含むすべてのコントローラに適用され、特にSシリーズ機器ブラケット (P/N: SSERIES-CB-10) を使用して機器にTrimble TDC600コントローラを取り付けて使用する際に便利です。

Trimble固定局受信機へのIP直接接続のパスワードサポート

Trimble Access は、GNSS RTK測量のためにインターネットを介してTrimble固定局受信機へ直接接続する際のパスワードをサポートようになりました。以前は、パスワードはNTRIPサーバーに接続する場合にのみサポートされていました。

座標系機能強化

ローカル変位モデルを使用して**Trimble RTX**位置を変換

Trimble RTX[®]位置を測定のエポックおよびグローバル基準フレームで ITRF 2014 に変換する時間依存座標変換機能が改良されました:

- ローカル変位モデルは、使用可能な場合に使用されます。
- ローカル変位モデルが使用できない場合は、Trimble Access は以前のバージョンで使用されていたMORVEL56構造プレート速度ではなく、ITRF構造プレート速度を使用します。
- ETRSの国別の実現はヨーロッパで使用されています。

これらの改良により、ユーザは座標変換で最適な精度を得るとともに、選択した座標系で可能な限りの最適な座標を得られます。

影響を受ける国の一覧については、次の表を参照してください:

国	基準フレーム	ローカル変位モデル
オーストラリア	GDA2020	なし*
ブラジル	SIRGAS2000	VEMOS2009
カナダ	NAD83(CSRS) v7	CSRS速度グリッドV7.0
Denmark	EUREF-DK94	NKG-RF03
エストニア	EST97	NKG-RF03
フィンランド	EUREF-FIN	NKG-RF03
フランス	RGF93v2	ITRF2014
ドイツ	ETRS89-DR91(R16)	ITRF2014
アイスランド	ISN2016	ISN2016
ニュージーランド	NZGD2000	NZGD2000変形モデル
ノルウェイ	EUREF89	NKG-RF03
ロシア	PZ-90.11	なし
スウェーデン	SWEREF99	NKG-RF03
イギリス	OSNetv2009	ITRF2014
アメリカ	NAD83(2011)	HTDP V3.2.9

*オーストラリアでは構造プレートモーションが公開されている14パラメータの測地系変換でキャプチャされるため、変位モデルは使用されません。

Trimble Business Centerで変位モデルを使用するTrimble Access 2020.20ジョブを使用するには、Trimble Business Centerバージョン5.40を使用してください。

注意 - RTXデータを持つ古いTrimble Accessジョブは、Trimble Access 2020.20で使用できます。ジョブを選択すると、ソフトウェアが座標が異なることを警告します。ジョブをアップグレードして、新しい変位モデルで使用できるようにするかどうかを選択できます。保存されているRTX座標は変更されず、変換だけが行われます。ジョブをアップグレードしない場合は、以前のバージョンのTrimble Accessでのみジョブを使用できます。

詳しくは、**Trimble Access** サポートページ www.trimble.com/support_trl.aspx?Nav=Collection-62098&pt=Trimble%20Accessのテクニカル・ドキュメントセクションの *Deformation models in Trimble Access 2020.20 and Trimble Business Center 5.40* ホワイトペーパーを参照してください。

Trimble Access は、RTK測量で使用する構造プレートを自動的に選択するようになりました。

RTX測量を開始する際、Trimble Accessはローカル変位モデルを使用しますが、その位置でローカルモデルが使用できない場合は、ソフトウェアは、測定のエポックからITRF 2014座標をジョブのグローバル基準エポックに反映するためにグローバル構造プレートモデルから構造プレートを選択します。以前は、ソフトウェアによって使用する構造プレートを選択するよう求められていました。

構造プレートフィールドは、ジョブプロパティ画面ではなく座標系の選択画面で表示されるようになりました。構造プレートフィールドは、変位モデルがグローバル構造プレートモデルの場合(ITRF 2014)のみ表示されます。

Trimble Accessは、**ITRF 2014**座標の**X、Y、Z**および**T**座標としてのキー入力をサポートするようになりました。

任意のジョブに対して、座標ビューフィールドから**ITRF 2014**を選択し、(例えばRTXなどの後処理サービスから受け取った)ITRF座標をX、Y、ZおよびT(測定的时间/エポック)座標としてキー入力できるようになりました。

座標系データベース更新

- デンマークのFehmarnbeltプロジェクトに測地系、ジオイド、およびゾーンを追加しました。
- デンマーク用の測地系EUREF-DK94を追加しました。
- フィンランド用の測地系EUREF-FINを追加しました。
- ドイツ用の測地系ETRS89-DREF91(R16)を追加しました。
- スロベニアのジオイドモデルを追加し、スロベニアの全国グリッドゾーンで参照できるようになりました。
- この測地系を参照する日本とState Plane 2011ゾーンに測地系JGD2011を追加しました。
- EGM 2008ジオイドサブグリッドは、ロシアのすべてのゾーンで参照されるようになりました。
- Geodetic Ref System 1967楕円体半短径は、ハンガリーで使用される定義に準拠するために、小数点第3位まで定義されるようになりました。
- 既存のローカル測地系のグローバル基準測地系を修正しました。
 - NAD 1983(カナダ): NAD83(CSRs)だったのが、NAD83(CSRs)v7(EPOCH:2010)になりました
 - 陸地測量部:ETRS89だったのが、OSNetv2009になりました
 - PZ-90.11: WGS1984だったのが、PZ-90.11になりました
 - HS2測量測地系2002:ETRS89だったのが、OSNetv2009になりました
 - HS2測量測地系2015:ETRS89だったのが、OSNetv2009になりました
 - FEH2010(GPSnet.dkから): ETRS89だったのが、EUREF-DK94になりました

解決された問題

- プロジェクト画面: 特にプロジェクトが多数ある場合や、大きな画像ファイルが添付されている場合に、プロジェクト画面の反応が悪くなる問題を修正しました。
- ジョブのダウンロード: Trimble Connectにサインインしていない時に、ジョブをダウンロードしようすると、プロジェクト情報をTrimble Connectから取得できないというメッセージではなく、サインイン画面が表示されるようになりました。
- サブフォルダ内のポイントファイル: 関連ファイル画面のポイントファイルタブに、現在のジョブフォルダ内のすべてのCSVファイルとTXTファイル、およびプロジェクトフォルダまでのネスト化フォルダが表示されるようになりました。これで、マップファイルタブの動作と一致するようになりました。
- 重複ポイント: データベースの順序や名前ポイントリストを並べ替える際、並べ替え方向に関係なく常に一緒に表示されるように、インデントされたグループに重複したポイントが表示されるようになりました。コードなど、他の条件で並べ替える場合、重複するポイントはグループ化されず、すべてのポイントは互いに独立して並べ替えられます。ポイントマネージャでは、削除されたポイントレコードがリスト内の正しいポイントの下に表示されるようになりました。

- **DXF**エクスポート: 特徴コード化された線画を使用して作成された滑らかな曲線と点円弧が、DXFファイルに正しくエクスポートされるようになりました。
- **BIM**モデル: 座標計算設定 / グリッド座標 オプションが北-西にプラスまたは南-東にプラスに設定されているジョブのBIMモデルのエンティティの表示と選択が改善されました。以前は、ポリラインまたはポリエッジの選択が正しい位置に描画されませんでした。表面選択は正しい位置に描画されましたが、計算に使用すると、計算結果が正しく配置されませんでした。
- マップ内の項目の選択: 他の特徴に近いマップ内のラインや円弧を選択し、エンティティ選択リストを表示するようにソフトウェアに求めた際、選択されたエンティティの範囲を表示するためにマップが自動的にズームアウトされなくなりました。
- 複数エンティティのレビュー: マップで複数エンティティを選択し、レビューをタップすると、次へまたは前へソフトキーを使用してエンティティ間を移動した際、正しいエンティティが強調表示されるようになりました。
- ファイルポイントの絞り込み: フィルタの選択画面の関連ファイルポイントオプションが、関連付けられたCSVファイルまたはTXTファイル内のポイントにのみ適用されるようになりました。関連ジョブ内のポイントには影響しません。
- 座標計算面積の計算: 面積計算画面を開いてから、計算のためにマップからポイントを選択しようとした際、1つのポイントしか選択できず、計算を実行できない問題が修正されました。面積計算画面を開く前に、マップ内のポイントを選択しても問題はありませんでした。
- ポリラインステーション: ポリライン上のステーションは、マップ内で黒い円で表されるようになりました。ステーションの値が横に表示されます。
- ポリラインのオフセット: ポリラインをオフセットする際、開始ステーションとステーション間隔を設定できるようになりました。
- 前回のステーションセットアップをコピーする: ステーションセットアップが1D後視を含んだ交合法である場合、Trimble Accessが前回のステーションセットアップを別のジョブからコピーできない問題を修正しました。
- **Trimble Business Center** コピーされたステーションセットアップのエラー: 別のジョブからコピーされた交合法ステーションセットアップを含んだジョブの場合、Trimble Business Centerが時折、アクティブなステーションと交合法ポイント名とマッチングする際にエラーを報告する問題が修正されました。
- ジョブ間でポイントをコピーした後、前回のステーションセットアップをコピーする: 前回のステーションセットアップに使用したポイントをジョブ間でコピーしてから、前回のステーションセットアップをジョブ間でコピーした際、現在のジョブ内に既に同じ名前と同じ空白座標を持つポイントが存在する場合でも、コピー先のステーションセットアップレコードに方位角のみの後視ポイントレコードが含まれるようになりました。
- 再測定されたポイントが間違っ、前回使用したコードを使用する: トータルステーション測量でポイントを再測定する際、間違ったコードが使用されることがある問題を修正しました。コードが割り当てられたポイントを測定した後、別のステーションセットアップから別のコードを持つポイントを測定し、さらに最初のポイントを再測定した場合、保存されるコードが元のコードではなく、前回使用されたコードになっていました。
- チェックポイントコードが自動入力されない: 添付ファイル内のポイントに対してチェックポイントを測定した場合に、コードフィールドに自動的にデータが入力されない問題が修正されました。
- **SX10**動画画面: ≡ / ここに戻る / 動画をタップして、ソフトウェア内の別の画面から動画画面に戻った際、動画画面が以前よりも速く読み込まれるようになりました。

- **GNSS**に向ける: **GNSS**に向けるオプションが、**GPS**検索 が有効で使用可能な場合にのみ、長押しメニューに表示されるようになりました。**GPS**検索 の使用可能性は黒いSVアイコンで示されます。SVアイコンが赤の場合、**GPS**検索 は無効または使用不可です。
- **QC**グラフのチルト距離: **QC**グラフ画面のチルト距離 グラフが、Trimble R12i受信機からの傾斜データを表示していなかった問題を修正しました。
- 放送**RTCM**座標系: 完全な範囲値を提供しないマウントポイントから**RTCM**座標系情報を取得する場合、または範囲内に偶数のグリッドの正方形がある場合のファイルの内容と**RTD**ファイル名が変更されました。結果として出力される新しいファイルは古い**RTD**ファイルと統合できません。ジョブを作成する場合は、既存の**RTD**ファイルを使用して以前のデータとの互換性を保つことができます。または、自動的に新規ファイルを作成するよう選択できます(推奨)。
- 放送**RTCM**座標系の変更: 測量中にジョブの放送**RTCM**座標系を変更すると、アプリケーションエラーと奇妙な**RTD**ファイル名が発生する問題を修正しました。Trimble Access では、測量が実行されていない場合にのみ、座標系の変更が許可されます。
- **Bosch GLM 50C**レーザ測距儀: **Bosch GLM 50C**レーザ測距儀を使用する際、デバイスが水平距離モードに設定されているにも関わらずTrimble Accessで水平距離が斜距離として解釈されていた問題を修正しました。
- ポップアップキーボード: 英数字キーボードのないコントローラを使用している場合、編集できるテキストまたは数値フィールド以外の右側ペインをタップすると、ポップアップキーボードが閉じるようになりました。
- **TDC600**の**Bluetooth**接続: **TDC600**コントローラを使用する際の**Bluetooth**接続に関する以下の問題が修正されました。
 - 接続が一時的に切断されると、Trimble Access が**GNSS**受信機への**Bluetooth**接続を自動的に回復するようになりました。
 - **TDC600**コントローラが別のAndroidデバイスに接続され、**Bluetooth PAN**を介してリアルタイムのデータ補正を受信している場合、Trimble Access ステータスバーに正しいネットワーク接続アイコンが表示されるようになりました。
- **Android**固有の問題: **Android**コントローラで Trimble Access を実行する際の以下の問題が修正されました:
 - マップのパンニング: マップの自動パンから現在位置、ここへパン、ポイントへパン機能が従来の測量および**GNSS**測量で正しく機能するようになりました。
 - これで、マップツールバーの  をタップしてスキャンを選択することで、Trimble VISION技術を備えたTrimble VXシリーズやSシリーズ機械を使用して作成された.tsfファイルのスキャンポイントの表示を制御できるようになりました。以前のバージョンのTrimble Access のスキャンメニュー項目は、Androidコントローラで使用できませんでした。
 - コントローラをサーバとして動作する**RTK**基準局として使用する場合、ソフトウェアは「localhost」ではなく適切なIPアドレスを表示するようになりました。
 -  / 設定 / 測量スタイル / 測量スタイル名 / 杭打ちをタップして、必要なフォーマットを適切なドロップダウンリストから選択することで、杭打ちデルタ形式を選択できるようになりました。以前は Trimble Access をAndroidコントローラで実行し、英語以外の言語を使用している場合に杭打ちデルタ形式を選択できませんでした。
 - File Explorer を使用してジョブファイルを Trimble Business Center にドラッグアンドドロップする場合、ファイルを転送する前に Trimble Access でジョブを閉じる必要がなくなりました。以前は、ジョブの最新の変更が転送されたことを確認するために、ジョブを閉じる必要がありました。

- アプリケーションエラー: ソフトウェアを使用したり閉じたりする際にアプリケーションエラーを発生させる幾つかの問題を修正しました。とりわけ:
 - 以前ジョブと同じ名前のJXLファイルにエクスポートしたジョブをアップロードしようとした場合。
 - ジョブの確認画面でトラバース調整レコードを選択する場合。
 - ジョブが開いていてメインメニューが表示されているときに、**Ctrl + Q**を使用してソフトウェアを終了する場合。
 - 最後の2つの列のいずれかで並べ替えが設定されているときにポイントマネージャー画面を表示するとき、最後にポイントマネージャー画面が表示されてから列数に変更された場合(たとえば、ジョブのプロパティ画面で説明を使用する設定を有効にして無効にする)。
 - ジョブの確認画面でポイントの杭打ちレコードを表示し、ジョブのプロパティ画面で選択した特徴ライブラリを変更する場合。
 - 以前SX10への接続が中断されたときに進行中であったスキャンを停止するとき。この問題により、ソフトウェアは停止したままになり、Windowsタスクマネージャを使用するなど、ソフトウェアを強制的に終了するまで何の操作も実行できませんでした。
 - 投影なし/測地なし座標系で新しいジョブを作成する際、接続された受信機がRTXポジションを生成している場合。
 - Surveyベーシックで、無線リンクがダウンしている間に機器の水平円を設定しようとする場合。
 - モニターで、ジョブがサブフォルダに保存されているときに、参照からステーションをインポートを実行しようとした場合。

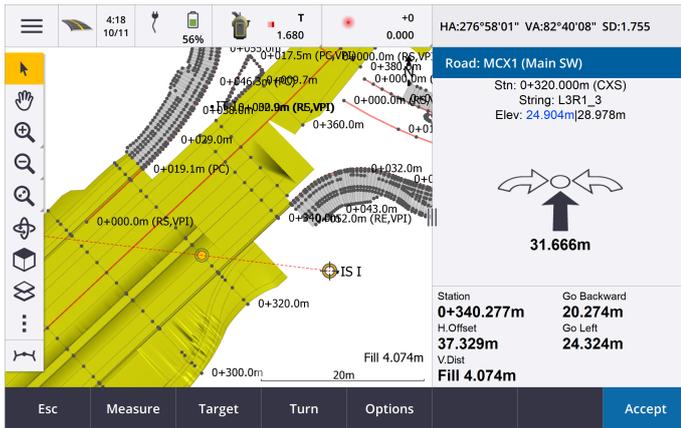
道路

機能強化

地図を離れずにTrimble道路やLandXMLストリング道路を杭打ちする

マップからTrimble道路やLandXMLストリング道路を杭打ちする際、ナビゲーション画面にマップが表示されるようになりました。これには、次のような多くの利点があります。

- 柔軟性が高まり、ワークフローが改善される。
たとえば、道路に対する現在位置を測定する際、ストリング上のステーションをタップしてその位置を杭打ちすることができます。ポイントが保存された後、ストリング上の別のステーションを選択したり、ストリングをタップしてストリングに対する現在位置を測定したり、マップの空白部分をタップして道路に対する現在位置を測定し続けたりすることができます。ソフトウェアの旧バージョンでは、その場で杭打ち方法を変更する必要がある場合、ナビゲーション画面を離れる必要がありました。
- 他のマップビューとの整合性。
- 道路を杭打ちする際、マップズームツールを使用し、最適な方法で道路を表示できるようになりました。ズームツールは、横断面ビューでも使用できます。
- ターゲットに向かってナビゲートしながら、道路を3Dで表示できます。これは特に、水平および鉛直の両方の工事オフセットが適用されている場合に便利です。



LandXML スtring 道路および機能強化

- **ステーション間隔:** LandXML String 道路のステーション間隔を編集できるようになりました。旧バージョンでは、ハードウェアで 20.000m に固定されていました。ステーション間隔を編集するには、マップ内の道路を選択し、編集をタップし、オプションをタップします。
- **使用可能なステーション:** どのステーションを杭打ち対象に選択可能かをコントロールできるようになりました。これを行うには、マップから道路を選択し、杭打ちをタップします。アンテナの高さまたはターゲットの高さの値を入力する画面で、オプションをタップし、次のいずれかのオプションを選択します:
 - 計算セクションは、ステーション間隔により定義されたステーションを表示します。
 - 水平曲線は、水平線形により定義された主要ステーションを表示します。
 - 鉛直曲線は、鉛直線形により定義された主要ステーションを表示します。
 - 設計セクションは、ファイル内の位置により定義されたステーションを表示します。
- **サブString 内の円弧:** 道路ソフトウェアは、LandXML String 道路のサブString 内の円弧をサポートするようになりました。

3D ドライブで道路を巡回する

自動 3D ドライブスルー機能を使用して道路を確認する際、道路を巡回できるようになりました。これを行うには、 をタップしてドライブスルーを一時停止し、画面をタップして巡回する方向にスワイプします。

解決された問題

- **LandXML String 道路内の追加 String:** 下記の問題が解決されました:
 - String がオフセットと計算された勾配によって定義され、かつ派生元と計算元の String のオフセットが同じである場合、追加 String が正しく計算されない。
 - LandXML 道路ファイル内の一部の String が追加 String として表示され、動作しているにもかかわらず、追加 String ではない。
- **LandXML String 道路のレビュー:** LandXML String 道路を確認する際、別の道路上の位置や String を選択すると、選択項目が強調表示されるようになりました。また、矢印キーを使用して別の位置や String を選択することもできるようになりました。

- マップが周回される際の杭打ち: TrimbleまたはLandXMLストリング道路の場合、マップが周回される際、杭打ち対象位置をより確実に選択できるようになりました。旧バージョンでは、特にマップが鋭角の場合に、正しい位置を選択することが困難でした。GENIO道路の場合、マップが平面表示になっている時に位置を選択することをお勧めします。
- 路床の杭打ち: 水平方向の工事オフセットを含んだ路床の位置を杭打ちする際、矢印キーを使用して次の(または前の)ステーションを選択できるようになりました。旧バージョンでは、工事オフセットによって定義された位置が新しいステーションに移動しても、路床の位置は元のステーションに残っていました。リストからのステーションの選択は正常に機能していました。
- 水平工事オフセット: ストリング上のステーションや、追加ストリング上のステーション、追加ポイントを選択する際、水平工事オフセットが杭打ち時に表示されるようになりました。旧バージョンでは、選択された位置に高さが無い場合、オフセットは表示されませんでした。
- 平面線形内の要素のスパイラル: 部分的に構築されたスパイラルの始点と終点の半径値の差が非常に小さい場合に、道路の平面線形が正しく表示されない問題を修正しました。
- GENIO道路: 非常に多数の横断面を持つGENIO道路を見直したり、杭打ちしたりする際のパフォーマンスが向上しました。以前は、ストリングまたはストリング上のステーションを選択するのに時間を要しました。
- アプリケーションエラー: ソフトウェアを使用したり閉じたりする際にアプリケーションエラーを発生させる幾つかの問題を修正しました。とりわけ:
 - 独立したストリングとして定義されている追加LandXMLストリングを基準に相対的に杭打ちを行いながら、横断面を表示しようとした際。
 - 追加ストリング上のステーションの高さを編集しようとした際。
 - 杭打ち画面でITレコードを含むGENIOファイルを選択した際。
 - 道路に追加ストリングが含まれるLandXMLストリング道路を含んだジョブを開いた際、高い残差バイト値メッセージが表示されなくなりました。
 - その中にはサイドスロープがないが、その前後にサイドスロープが定義されている領域で杭打ちを行う際、横断面ビューに切り替えた際。

モニター

2020年12月にTrimble Accessバージョン2020.20とともにリリースされたモニターバージョン1.1.2はWindowsコントローラで使用できます。

注意 - モニターバージョン1.1.1.5は、Androidコントローラで利用可能な最新バージョンです。以下に示す改善点は、Windows用バージョン1.1.2に適用されます。これらの改善は、Androidでは使用できません。

新機能

モニターバージョン1.1.2は、現場に持ち込まれた複数のアプリケーションやデバイスの必要性を減らして、自動監視のためのサイトのセットアップを効率化します。手動および自動の両方の監視プロジェクトに同じワークフローを使用できます。

Settop M1を介してTrimble 4D Controlへサイトセットアップを転送

Settop M1は、自動監視環境でトータルステーションに通信する場合に推奨される方法です。新しい**Settop M1**機能により、ポイントリストやラウンドスケジューラ設定などのサイトセットアップ情報をSettop M1に滞りなく転送し、間接的に

Trimble 4D Controlに転送できます。この機能により、フィールド(Settop M1)および Trimble 4D Controlの追加の設定作業を行う必要がなくなります。

サイトセットアップ情報を転送するには、モニターで **☰** をタップし、データ交換 / **Settop M1** / サイト設定を送信を選択します。

Trimble 4D Control とサイトセットアップの交換(インポート/エクスポート)

モニターフィールドソフトウェアは、両方向にサイトセットアップ交換機能を追加することで、さらに Trimble 4D Control と連携します。Settop M1を使用しないシナリオで **T4D** コントロール機能を使用すると、現場でサイトセットアップを実行しその後、この情報を Trimble 4D Control で利用できます。さらに、Trimble 4D Control によってエクスポートされた既存のサイトセットアップをインポートして、フィールドでの作業を続行することもできます。

サイトセットアップをエクスポートするには、モニターの **☰** をタップし、データ交換 / **T4D** 制御 / サイトセットアップのエクスポートを選択します。

サイトセットアップをインポートするには、モニターの **☰** をタップし、データ交換 / **T4D** コントロール / サイトセットアップのインポートを選択します。

機能強化

- プリズム定数はメートルではなくミリメートルで入力できるようになりました。

サポートされている機器

Trimble Accessソフトウェアのバージョン2020.20は、下記のソフトウェアおよびハードウェア製品との通信に最適です。

最高のパフォーマンスを維持するため、ハードウェアには常に使用可能な最新のファームウェアをインストールしてください。最近のソフトウェアおよびファームウェアバージョンに関する詳しい情報は、[Trimble地球空間ソフトウェアおよびファームウェアの最新リリース文書](#)をご参照ください。

サポートされているコントローラ

Windows端末

Trimble Accessソフトウェアは、以下の64ビットコントローラ上で動作します:

- Trimble TSC7 コントローラ
- Trimble T7またはT10 タブレット
- 対応 サードパーティー製 タブレット

対応 サードパーティー製 タブレットに関する詳しい情報は、www.trimble.com/support_trl.aspx?Nav=Collection-62098&pt=Trimble%20Accessにアクセスし、サポートノートと公示をクリックし、**Trimble Access 2019 on 64-bit Windows 10** 公示をダウンロードします。

Android端末

Trimble Accessソフトウェアは、以下のAndroid™端末上で実行されます:

- Trimble TDC600ハンドヘルド
- Trimble TCU5コントローラ

Androidデバイス上でTrimble Accessを実行の際、サポート対象外となる機能に関する詳しい情報は、[Trimble Accessヘルプ](#)内の**Android**デバイスに関するヒントのトピックをご参照ください。

サポート対象の一般機器

Trimble Accessを実行中のコントローラに接続可能な従来型機器は以下の通りです:

- Trimble スキャニングトータルステーション: SX10
- Trimble VX™ スペーシャルステーション
- Trimble S Series トータルステーション: S9、S7、S5 とS8、S6、S3
- Trimble機械式トータルステーション: C5、C3、M3、R4、M1
- Trimble SPS Series トータルステーション
- Spectra® Geospatial トータルステーション: FOCUS® 35、30
- サポート対象のサードパーティ製トータルステーション

Trimble Accessソフトウェア内で使用可能な機能は、接続された機器の型式およびファームウェアバージョンによって異なります。Trimbleでは、本バージョンのTrimble Accessを使用されるに当たって、入手可能な最新のファームウェアに機器をアップデートすることをお勧めします。

サポート対象のGNSS受信機

Trimble Accessを実行中のコントローラに接続可能なGNSS受信機は、以下の通りです:

- Trimble統合GNSS測量システム: R12i、R12、R10、R8s、R8、R6、R4、R2
- TrimbleモジュラーGNSS測量システム: R9s、NetR9地理空間、R7、R5
- Trimble SPSシリーズGNSSスマートアンテナ: SPS585、SPS785、SPS985、SPS985L、SPS986
- Trimble SPSシリーズGNSSモジュラー受信機; SPS85x
- Trimble Alloy GNSS基準局受信機
- Spectra Geospatial受信機: SP60、SP80、SP85、R4、SP90m
- FAZA2 GNSS受信機
- S-Max GEO 受信機

注意 -

- Spectra Geospatial受信機は、他のサポート対象受信機とは異なるGNSSファームウェアを使用することから、Spectra Geospatial使用の際は、Trimble Accessソフトウェア内の全ての機能が使用できるわけではありません。詳細については、[Spectra Geospatial receiver support in Trimble Access](#) ヘルプを参照してください。

Trimble オフィスソフトウェア

- Trimble Business Center
- Trimble Sync Manager

インストール情報

永久ライセンスのインストールされた対応コントローラにTrimble Access 2020.20をインストールするには、コントローラに**11月 2020**まで有効なTrimble Accessソフトウェアメンテナンス契約がインストールされている必要があります。

永久ライセンスではなくTrimble Access受信契約を使用している場合は、サポートされている任意のコントローラにTrimble Access 2020.20をインストールできます。ソフトウェアを使用するには、ユーザの組織内のライセンス管理者が、[Trimble License Manager webapp](#)を使用してユーザに受信契約を割り当てる必要があります。コンピュータ上でTrimble Access受信契約を使用するには、ソフトウェアの起動時に、Trimble IDを使用してサインインする必要があります。サインアウトするまで、受信契約はコントローラにロックされます。サインアウトしたら、別のコントローラでTrimble Accessを実行してサインインし、そのコントローラに受信契約をロックし、ソフトウェアを使用します。

ソフトウェアをコントローラにインストールするには、コントローラのオペレーティングシステムに応じて適切なTrimble Installation Managerを使用します。

- Trimble Installation Manager Windows用 
- Trimble Installation Manager Android用 

旧コントローラから新規コントローラにアップグレードするには、適切なTrimble Installation Managerを使用し、現在ソフトウェア保守契約がある旧コントローラからTrimble Accessソフトウェアライセンスをいったん放棄します。ディストリビュータがライセンスを新しいコントローラに再割り当てしたら、Trimble Accessを使用してTrimble Installation Managerを新しいコントローラにインストールすることができます。

Windowsコントローラにソフトウェアをインストール

Trimble Installation Manager Windows用  をダウンロードし、インストールするには、コントローラをインターネットに接続してからwww.trimble.com/installationmanagerを開き、www.trimble.com/tim タブを選択します。

コントローラ上でTrimble Installation Managerを実行するには、Windowsタスクバーで検索アイコンをタップし、インストールと入力します。検索結果内のTrimble Installation Manager  をタップし、Trimble Installation Managerを開きます。ソフトウェアを実行する際、最新の変更およびソフトウェアリリースに自動的に更新されます。

Trimble Access バージョン2017.xx以降で最後に使用されたジョブは、Trimble Accessで開くと自動的に最新バージョンのソフトウェアに変換されます。古いジョブを変換するためのツールはいくつかあります。詳しくは、**Trimble Access: Converting jobs to a newer version**ドキュメントをwww.trimble.com/support_trl.aspx?Nav=Collection-62098&pt=Trimble%20Accessからご参照ください。

Trimble Installation Manager Windows用は、必要に応じてインストールまたはアンインストールすることができます。Trimble Accessソフトウェアには影響しません。

詳しくは、[Trimble Installation Manager Windows用 ヘルプ](#)をご参照ください。

Androidコントローラにソフトウェアをインストール

Trimble Installation Manager Android用  をダウンロードし、インストールするには、コントローラをインターネットに接続してwww.trimble.com/installationmanagerを開き、www.trimble.com/timタブを選択します。

コントローラでTrimble Installation Managerを実行するには、Android アプリ画面を開き、Trimble Installation Manager Android用  アイコンをタップします。ソフトウェアを実行する際、最新の変更およびソフトウェアリリースに自動的に更新されます。

注意 - Trimble Installation Manager Android用 は必ずコントローラにインストールしたままにしてください。Trimble Accessソフトウェアを実行するために必要です。

Trimble Accessバージョン2019.xx で最後に使用されたジョブは、Trimble Accessで開いたときに、自動的に最新バージョンのソフトウェアに変換されます。古いジョブを変換するためのツールはいくつかあります。詳しくは、**Trimble Access: Converting jobs to a newer version**ドキュメントをwww.trimble.com/support_trl.aspx?Nav=Collection-62098&pt=Trimble%20Accessからご参照ください。

詳しくは、[Trimble Installation Manager Android用 ヘルプ](#)をご参照ください。

アカウントをお持ちでない場合Windows端末上でソフトウェアのトライアル

Trimble Accessの最新バージョンをお試しいただく際の手順が、さらに簡単になりました。Trimble Installation Managerを使用して制限付きデモ版ライセンスを作成し、Windows 10がインストールされたコンピュータにTrimble Access 2020.20をインストールすることができます。デモライセンスは1件のジョブあたり30点の追加に限定されていますが、他の場所で作成されたそれよりも大きなジョブは開いたりレビューしたりすることが可能です。デモライセンスでは最初の30日間、GNSS受信機やトータルステーションへの接続が可能です。30日経過後は、GNSSエミュレータと手動機器への「接続」のみ可能です。

注意 - Trimble Accessライセンスが既に登録されたデバイス上に、Trimble Accessのデモ版ライセンスを作成することはできません。デモ用ライセンスが使用できるのはWindows端末のみです。

さらに詳しい情報は、**To try out software**のトピックを[Trimble Installation Manager Windows用 ヘルプ](#)からご参照ください。

オフィスソフトウェアの更新

バージョン2020.20にアップグレードの際は、Trimble Accessジョブをインポートできるようにするため、Trimble Installation Managerを使用してオフィスソフトウェアをアップデートする必要がある場合があります。下記をご使用の場合：

- Trimble Business Center——Trimble Business Centerに付属のアップデートのチェックユーティリティを使用して全ての必須アップデートが処理されるため、Trimble Installation Managerを使用する必要はありません。
- Trimble Link™など、その他のファイル形式にジョブファイルを変換するためのその他のオフィスソフトウェア——がインストールされているTrimble Linkコンピュータ上にTrimble Installation Managerをインストールした上で、Trimble Installation Managerを実行してオフィスアップデートをインストールします。

ソリューション改善プログラム

Trimble Solution Improvement Programは、Trimbleプログラムの利用方法についてや、発生する可能性のある問題の幾つかについての情報を収集します。Trimbleは、この情報をもとに、最も頻繁に使用される製品や機能の向上に役立て、問題解決のお手伝いをし、お客様のニーズにお応えします。

プログラムへの参加は、任意で強制ではありません。Solution Improvement Programへの参加・不参加はいつでも変更できます。変更するには、Trimble Accessの☰をタップし情報を選択します。法律情報をタップし、ソリューション改善プログラムを選択します。ソリューション改善プログラムに参加するチェックボックスを選択・解除します。

詳しくは、[Trimble Access ヘルプ](#)内のソフトウェア設定のトピックをご参照ください。

さらに詳しい情報

コントローラ上でTrimble Accessヘルプを参照するには、キーパッド上の☰キーを押すか、Trimble Accessソフトウェア内の☰をタップしてから、ヘルプを選択します。

コンピュータからTrimble Accessヘルプポータルを参照するには、下記にアクセスしてください

<https://help.trimblegeospatial.com/TrimbleAccess/>。

Trimble Accessアプリの使用条件

Trimble Accessソフトウェアスイートは、測量士や地理空間の専門家向けに、フィールドワークを容易にする一連の専門フィールドアプリケーションです。使い方が簡単なインターフェース、最適化されたワークフロー、リアルタイムデータ同期により、日々の作業の成果をさらに高めることを可能にします。実際の作業に最適なアプリケーションを選択することで、競争力の向上を図りましょう。

Windows端末でサポートされているTrimble Accessアプリ

以下のTrimbleアプリは、対応Windows端末でTrimble Accessの実行時にサポートされています。

Trimble Accessソフトウェアのバージョン2020.xxは、以下の64ビットコントローラ上で動作します:

- Trimble TSC7 コントローラ
- Trimble T7またはT10 タブレット
- 対応 サードパーティー製 タブレット

Trimble Accessソフトウェアのバージョン2018.xxおよび2019.xxは、32ビットWindows10デバイスでも実行できます。

App	Contact	Trimble Accessバージョンで利用可能		
		2020.xx (64-bit)	2018.xx & 2019.xx (32-bit)	2017.xx
道路	Trimble	✓	✓	✓
トンネル	Trimble	✓	✓	✓
採掘鉞	Trimble	✓	✓	✓
Land Seismic	Trimble	✓	✓	✓

App	Contact	Trimble Accessバージョンで利用可能		
		2020.xx (64-bit)	2018.xx & 2019.xx (32-bit)	2017.xx
パイプライン	Trimble	✓	✓	✓
Power Line	Trimble	✓	✓	✓
Katastermodul Deutschland	Trimble	✓	✓	✓
モニター	Trimble	✓	✓	✓
Athletics	Settop	✗	✗	✓
AutoResection	Allnav Ag	✓	✓	✓
BathySurvey	Geometius	✓	✓	✓
BestFit	Geoteam	✗	✗	✓
Buildings	Calvo Geospatial Consulting	✗	✗	✓
Highrise	Allterra Germany	✗	✗	✓
Inspector	Calvo Geospatial Consulting	✗	✗	✓
Level Me	Settop	✗	✓	✓
Locator	Allterra Germany	✗	✗	✓
QuickStation	Geoteam	✗	✓	✓
RM3D Output	Settop	✗	✗	✓
Utility Survey	Vivax Metrotech	✗	✗	✓

Trimble Accessソフトウェアスイート向けに開発された全アプリケーションに関する詳しい情報は、
<https://geospatial.trimble.com/access-apps>でご参照ください。

Android端末でサポートされているTrimble Accessアプリ

以下のTrimbleアプリは、対応Android端末でTrimble Accessの実行時にサポートされています。より多くのアプリに対応できるように取り組んでいます。

Trimble Accessソフトウェアは、以下のAndroid™端末上で実行されます:

- Trimble TDC600ハンドヘルド
- Trimble TCU5コントローラ

Trimble Access Apps	Contact	Trimble Accessバージョンで利用可能	
		2020.10	2020.00
道路	Trimble	✓	✓
トンネル	Trimble	✓	✗
採掘鉞	Trimble	✓	✗
パイプライン	Trimble	✓	✗
モニター	Trimble	✓	✗

法的情報

© 2020, Trimble Inc. All rights reserved. Trimble、地球儀と三角形のロゴ、SpectraおよびTrimble RTXは、米国およびその他の国々で登録されたTrimble Inc.の商標です。Access、VISIONおよびVXはTrimble Inc.の商標です。

本製品に関する法的通知の全リストを参照するには、<https://help.trimblegeospatial.com/TrimbleAccess/>からページ最下部の法的情報をクリックしてください。